

「柏崎の橋」

24 萬世橋

萬世橋（まんせばし）は、高柳町門出の倉下集落脇を流れる鯖石川に架かる橋で、「倉下の橋」と呼ばれ親しまれている。



現在の萬世橋 手前より橋を渡って右は倉下・天王山へ 左は柵が原ダムへ続く

倉下集落は東頸城郡との郡境である松代町大字清水（現十日町市）に属していた。昭和31年1月1日高柳町へ編入された。当時の戸数は5軒。編入された理由は、松代町に比べ門出中心地が近く、行政機関や郵便集配及び電話連絡、小中学校の通学、経済圏等生活上の利便性が高いからである。倉下の人々が門出方面へ行く時だけでなく、門出の人々も先祖代々の山林や田畑へ行くために橋を渡った。互いを結ぶ橋の存在は重要だった。

昔架けられていた橋は、現在の場所より2～30m程下流にあった。その後少し高い現在の位置に木の吊橋が架けられた。吊橋は耕運機が通るのがやっとで、渡るたびに揺れたという。



仲人が先頭になり、吊橋を渡り倉下より嫁ぐ花嫁
昭和41年 『たか柳想懐』高柳町役場 編より

農道等の整備が盛んに行われる中、昭和43年に県の山村振興法の指定を受け、町道倉下線の改良工事を実施、併せて新しい橋も着工、昭和44

年11月に完成、永久橋となった。その橋は萬世橋と名づけられた。長27m、幅4m、橋部分の総事業費は650万円であった。



工事を陰で支えた女性たちも渡り初め
昭和44年『たか柳想懐』高柳町役場 編より

工事には男性だけでなく女性たちの尽力もあった。モンペに前掛け姿で砂利やブロックを手作業で運んだ。当時日雇いで1日400円程度の稼ぎだったという。

また、萬世橋は天王山（343.3m）への入り口でもある。かつて田植えの終わる7月14日頃には、十数人で旗を立て草鞋を履き橋を渡って「天王山まいり」に行ったという。山頂には20体程の地蔵が安置されている。数年前まで時期になると声かけ合い弁当を持って出かけた。天王山からの眺めはよく、門出が一望できた。

雪深く厳しい門出の冬。萬世橋も門出の人々と同じように春を待ちわびている。

●参考にした本

高柳町史本文（224 効）高柳町史編集委員会 編
松代町史下巻（231 マ）松代町史編集委員会 編
門出郷土誌（224 効）門出郷土誌編集委員会 編
年表高柳町昭和史（224 効）村田徳雄 著

最後に、快く当時の貴重なお話を聞かせていただきました矢代重紀様、小林陽子様、村田昇一様（順不同）に感謝申し上げます。